

鉄人28号

1963年

『鉄人28号』（てつじんにじゅうはちごう）は、横山光輝の漫画作品及び同作を原作としたラジオドラマ、特撮テレビドラマ、テレビアニメ、特撮映画、劇場版アニメ、舞台演劇、PlayStation 2用テレビゲームの作品名、並びに作品内に登場する架空のロボットの名称である。また、これらの作品中で使用された主題歌（アニメ化作品の主題歌は作詞・作曲：三木鶏郎）の曲名でもある。海外名はGigantor（ジャイガンター）。

【概要】

漫画連載と同時代の昭和30年代（1955年 - 1964年）の日本を舞台に、リモコンの保持者次第で善にも悪にもなるロボットを巡り、少年探偵と悪人たちの攻防を描く物語。リメイクを繰り返し、何度も映像化された人気作品である。『マジンガーZ』を初めとする多くの日本の巨大ロボットものに強い影響を与えている。本来は少年探偵ものであったが、鉄人編が好評を博したため、ロボットものへと方針が変更されたとされる。また、産経新聞記者として工業関係の取材経験のあった横山は、「最初は大きくしかできず、それから小さくなる」と考え、手塚治虫の『鉄腕アトム』を意識して鉄人28号を大型ロボットにしたとも語っていた。

【テレビアニメ第1作】

1963年10月20日 - 1966年5月25日、フジテレビ系列で放送された。84話で一旦終了した後、3か月後に新作13話が放送され、全97話となった。モノクロ作品。

【機体解説】

太平洋戦争末期、大日本帝国が起死回生を目的として乗鞍岳の研究所において極秘裏に建造していたロボット兵器、その28番目の設計機。原作では敷島博士が中心となって完成を見るはずであったが、起動実験の失敗を最後に計画は中止となり、研究班は特攻機開発のため南海の孤島にある秘密研究所へと配属された。しかし研究所の存在がアメリカ軍の知るところとなり島が爆撃を受け、研究員の大半が失われた事によって鉄人計画そのものも忘れられていた。戦後になり、計画に携わったと思われる謎の覆面の男によって乗鞍岳にて完成をみる。その後、コミックスの改訂版やアニメ化に合わせた再編集等で、正太郎の父親で科学者「金田博士」の設定が加わり、鉄人28号は金田博士が中心として戦時中に設計が行なわれ、先の爆撃で計画が頓挫したもの、戦後に戦争とは無関係に「科学者として素晴らしいロボットを完成させたい」という理由で金田博士と敷島博士の協力のもとで誕生した事になった。これによって鉄人の所有権と操縦者としての正当性を正太郎に付加したと考えられる。現在、「原作完全版」では上記の「謎の覆面の男」、「カッパコミックス版（再編集版）」では後記の「金田博士・敷島博士」になっている。内蔵武器や固定兵装を持たず、特殊鉄鋼による頑健さを武器とし、動力を手足等にも内蔵した補助装置（独立運動装置）により、不測の事態で手や足など各部が破損しても、出力は常に安定して稼働する事ができる。また、体格以上の怪力は運動装置の出力を練り合わせた結果であると推察されている。背部ロケットは初期設計には存在せず、ニコボンスキー率いるS国スパイが鉄人を手に入れた際に独自設計して取り付けた。ロケットの出力は戦艦を動かす程強力だが、たいてい壊れるのはロケットからである事から、鉄人本体ほどの強度や頑健さは無いものと見られる。破損に追記するならば、右腕関節が多く目立つ。手足が破壊され、もぎ取られても稼働には支障は出なかったが、さすがに片手片足では戦闘継続自体は無理だった。ロビーの怪ロボットとの戦いでは熱線が腹部装甲を貫通して内部に直撃、完全に機能を停止したこともあるが、鉄人を流用しようとしたロビーによって修理された末、奪回されている。後のファイア三世戦においては熱線に耐性を見せており、ビッグファイア博士は「特殊鉄鋼を使っているな」と分析している。大きさは連載当初は身長3メートル程度で描かれていた。しかし、しばしば人間を手ひらに乗せて運んだりするシーンや、連載後半にはビル5〜6階相当の立ちシーンが現れるようになる。鉄人が実現するには複数のアクチュエータと関節をフレキシブルに結合し、複数のアクチュエータが必要に応じて協調し大出力や高速動作を実現する多自由度干渉駆動技術が必要。現実はこの技術は筋電義手の研究開発を行なっている電気通信大学の横井浩史教授が研究している。なお、後年になるに連れて、鉄人以上の優れた強力なロボットが現れ始め、これらに対して鉄人自体のパワーや性能の優位性だけで対抗する事が叶わなくなっていく、力を受け流す等の戦法や敵ロボットの弱点を推測し攻める等、敷島博士に指示を受けたり、操縦者の技術や知恵を駆使して戦うようになり、より正太郎の操縦者としての判断力や行動力が鉄人に加味されていく事になる。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



鉄人28号モニュメント概要

2009年10月、神戸・新長田に鉄人28号の巨大モニュメント完成

直立時設定：18メートル（高さ15メートル30センチ）

総重量：50トン

<https://www.city.kobe.lg.jp/h53961/kuyakusho/nagataku/jyhouhou/tetsujin28.html>

2021.05.07

鉄人28号

ブラックオックス

ブラックオックスは横山光輝の漫画作品『鉄人28号』およびその派生作品に登場する架空のロボット。鉄人28号のライバルともいべき存在であり、実写テレビ版と『鉄人28号 白昼の残月』を除くすべての映像作品にも登場している。直訳すると「黒い雄牛」。

【機体解説】

人造人間の技術で生き返ったマッドサイエンティスト不乱拳（ふらんけん）博士が、覆面の怪人達に頼まれて製作した漆黒の怪ロボット。本来は「鉄人より強く、モノを考えるロボット」というのが設計目標であったが、覆面の怪人と博士に警察の手が伸びた為に急遽「鉄人に対抗できるロボット」として完成をみた。その経緯から、鉄人の弱点を突くことに要点を絞った装備が施されており、鉄人に対する強力なライバルロボとしての地位を得る。自律思考をし意志を持たせる事を目的とした電子頭脳を搭載しており、実験では自律思考による自己判断の試みは失敗したが、それでもプログラム判断による高度な自律行動が可能であり、警視庁襲撃の際は見事に捕まった怪人達を救い、指先からの催涙ガスで追跡を振り切って帰還した。また、強力な電波妨害装置が組み込まれており、遠隔操縦型（リモコン操縦）のロボットを行動不能にしたり、ロビーの製作したロボット達の電子回路を機能不全に陥れたりした。更に、指先からは熱線を放つことも可能で、強力な装甲を持つロボット群をまとめて溶解させるほどの威力がある。上記の機能に加え、頑健さ、パワーにおいても鉄人と互角以上であり、正太郎達は対処に大変な苦勞を強いられた。実際、まともに組んだら鉄人には勝ち目が無いと判断した正太郎は、オックス自体の攻略を止め、飛行できる鉄人の移動速度の利を生かし、オックスを操る怪人達を翻弄するという消極的な戦法に終始している。更に怪人達の手で鉄人すら奪取されてしまった為、自衛隊の戦力で怪人達に総攻撃を仕掛けたが、デリンジャー現象による鉄人とオックスの暴走という偶然の事態が無ければ勝利できなかった。事件解決後は警視庁の倉庫に保管されていたが、鉄人だけでは対処できない敵に対し際に正太郎に用いられ、鉄人と共に戦うようになる。

弱点として空が飛べないという点が上げられる。ちなみにオックスは去勢牛の意である。操縦はバッカスでも見られた腕時計型の小型操縦機で行われるが、バッカスと比べ自律性が高いので簡単な命令で行動していた。また、バッカスとの共通項として額の赤いマークが上げられる。

ギルバートとの戦闘の際、熱線の撃ち合いになり、装甲を溶かされながらもギルバートの上半身を完全に溶解させる。その後、角などが溶けた状態で立っている姿が確認できるが、それ以降は登場しない。白黒アニメ版では、ロビーの刺客である人型ロボット爆弾によって完全に破壊された描写がある。

『太陽の使者 鉄人28号』、『皇帝の紋章』（長谷川裕一著）では、念願の自律思考、意志を持つロボットとして完成（ただし、5歳児程度の知能しか持っていない）している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』



2021.05.08

1963年 鉄人28号

【金田正太郎 (かねだ しょうたろう)】

声 - 高橋和枝 (第1作)、山田栄子 (第2作)、田中秀幸 (FX)、折笠愛 (FXにおける少年時代)、くまいもとこ (第4作)、山本兼平 (ガオ!)

本作の主人公の少年探偵。快活で、機敏な行動力と大人顔負けの推理力と発想で事件を解決する。自動車を運転し、拳銃の名手であり、ジェット戦闘機に乗り込んだり、ヘリコプターの操縦や潜水作業等をも率先してこなす。鉄人事件以前から少年探偵として名を馳せ、警視庁にも出入りして捜査に協力する。鉄人事件以後は鉄人28号操縦者として、悪に戦いを挑んでいく。洋風の円形をした邸宅に一人で生活している。普段はブレザーと半ズボン、そしてネクタイを締めている。初期の愛車はクーペタイプのアルファ・ロメオ ディスコ・ボランテ (英語版)。

重馬敬著の小説版では緑色のトライアンフTR3Aを使用。

アニメ第3作では生年月日が1950年3月25日 (ただし、少年時代の回想では1974年に採用された74式戦車が度々出ている) とされ、成人 (アニメ第1作の正太郎が成長した姿) として登場。

とある事件で関わった事が切っ掛けで出逢った榊財団の社長令嬢で女性科学者の榊陽子と結婚し、長男・正人 (第3作の主人公) をもうけたとされている。

映画『白昼の残月』では、母違いの同名の兄、ショウタロウが登場。

正太郎の名前が「ショタコン」という少年愛を意味する語源となったという説がある。

【大塚 (おおつか) 署長】

声 - 富田耕生 (第1、2作)、稲葉実 (第4作)、松山鷹志 (ガオ!)

警察官として敏腕であるが推理力では少年探偵の正太郎にかなわず、正太郎とはホームズとワトソンを髣髴とさせる関係でもある。正太郎にとっては父親ではなく親戚のおじさんのような存在だが、署長は正太郎を息子のように大事に思っている。既婚者で子供はいないが、妻の加代子はかなりの美人である。

正太郎以上に感情の起伏が激しく、大いに泣き・笑い・怒るのであるが、常に冗談や場を和ませる笑いを振りまき、ムードメーカーでもある。行動派であり上官として部下の信頼も厚い。

警官としても人間的に正義感溢れる好人物。

初期は「大塚」と言う苗字は付いておらず劇中でも「署長」とだけ呼ばれていた。

アニメ第2作では茂という名前がある。

※ショタコン (英: Shotacon) とは、少年や小さい男の子を対象に抱く愛情・執着のこと、またはそのような感情や好みを持つ者のことを指す造語。

正太郎コンプレックス (しょうたろうコンプレックス、英: Shōtarō complex) を語源とする。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



1963年 鉄人28号

【第1作サブタイトル】

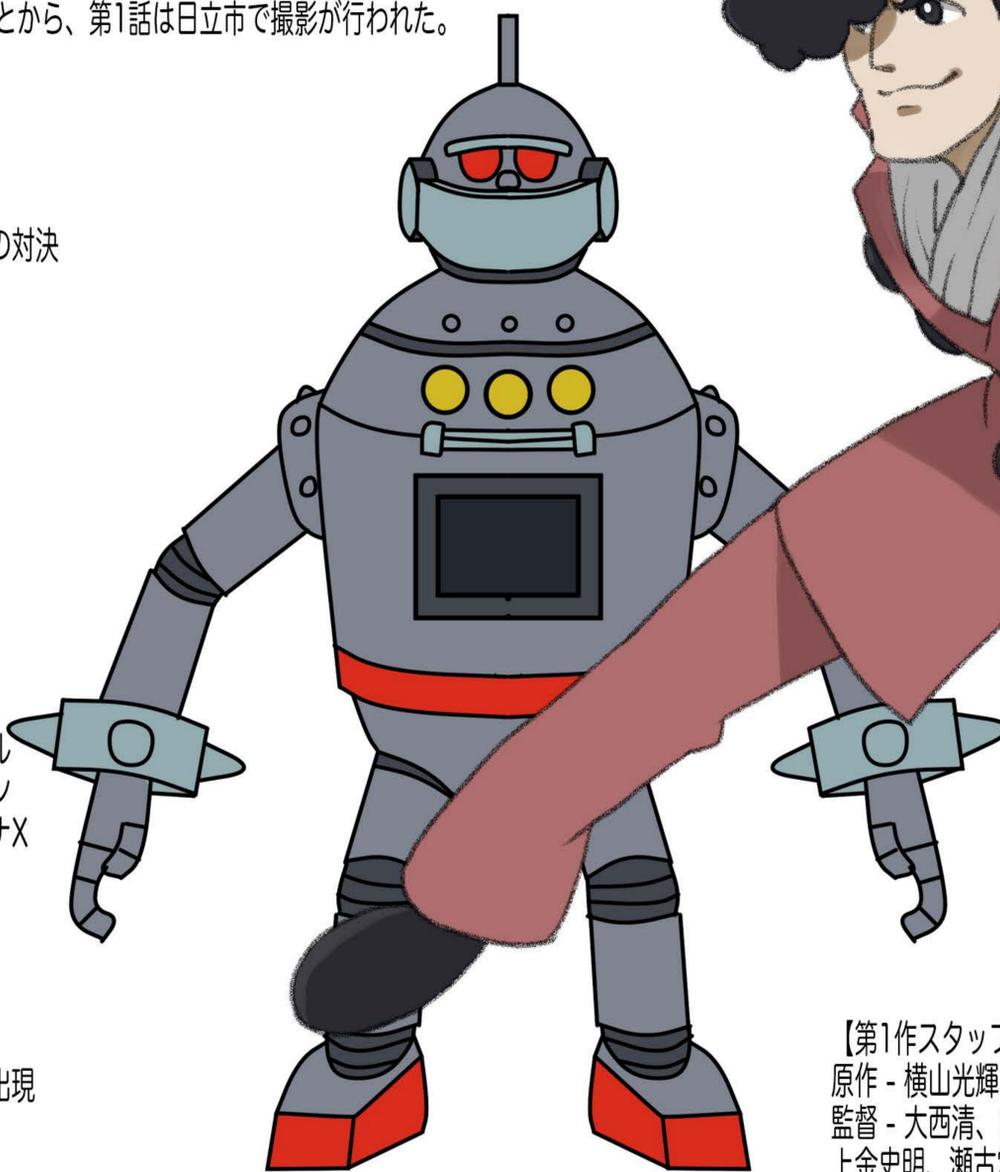
- 1 生いたちの記
- 2 PX団壊滅
- 3 X-33号の襲撃
- 4 空を飛ぶ28号
- 5 二人のクロロホルム
- 6 危うし正太郎
- 7 ギャング団 現わる
- 8 恐竜の襲撃
- 9 ニコボンスキーの悪だくみ
- 10 恐竜の逆襲
- 11 ニコボンスキーの最期
- 12 怪物アカエイ
- 13 奇巖城を攻撃せよ
- 14 人造人間モンスター
- 15 謎の怪人
- 16 怪人の正体フランケン博士
- 17 強敵バッカス
- 18 鉄人28号修理完了
- 19 バッカス撃退
- 20 フランケン博士の秘密
- 21 黒衣の怪人
- 22 ロボットオックス
- 23 ロボット部隊襲来
- 24 ロボット部隊撃滅戦
- 25 ドラグネット博士の野心
- 26 ロビーの最期
- 27 空飛ぶ円盤
- 28 ゴーギャンの逆襲
- 29 決戦火山島
- 30 ミラクル魔術団
- 31 海底基地
- 32 砂漠の鉄人
- 33 砂漠の反乱軍

- 34 砂漠の決戦
- 35 恐怖のミサイル
- 36 渡り鳥救出
- 37 謎の白蟻ゼブラゴーンの襲来
- 38 白蟻撃滅作戦
- 39 スパイダーの挑戦
- 40 スパイダーの逆襲
- 41 スパイダーの最期
- 42 氷原の地下帝国
- 43 氷原の決戦
- 44 海賊潜水艦隊
- 45 海賊ベロン三兄弟
- 46 海賊最後の日
- 47 怪ロボット・ギャングコング
- 48 緑の地獄
- 49 切手の秘密
- 50 地中海の決戦
- 51 透明人間現わる
- 52 ソロモン国の平和
- 53 ノース国の陰謀
- 54 大蜘蛛作戦
- 55 秘密兵器・炎弾丸
- 56 巨大昆虫の秘密
- 57 快盗アルサーヌ・ショパン
- 58 呪いのファイアバード
- 59 ファイア博士の最後
- 60 謎の暴走車
- 61 電磁壁突破作戦
- 62 ヒマラヤ山脈の秘密基地
- 63 ダイヤモンド基地K36
- 64 ネオパルム爆弾
- 65 東京危機一発
- 66 奇怪な白煙

- 67 壊滅クライシス団
- 68 地下道総攻撃
- 69 撃滅海底基地
- 70 ワルガン登場断崖上の対決
- 71 ワルガンの野心
- 72 スピートニック
- 73 巨人アタック3号
- 74 秘密工場爆破
- 75 魔の花ポイゾニア
- 76 黒い海の謎
- 77 鹿皮の密書
- 78 シスカス山中の要塞
- 79 パナマ運河の暴動
- 80 反撃メキシカン部隊
- 81 替玉作戦
- 82 強敵レッド・アニマル
- 83 輝かしきチャンピオン
- 84 宇宙ロボット・マグナX
- 85 撃滅マグナX
- 86 マグナX再び現わる
- 87 壊滅秘密輸送基地
- 88 ロボット邸の怪人
- 89 マグナXの最期
- 90 クレーン・ロボット出現
- 91 ゲラン博士の遺言
- 92 快盗ボルマンの襲撃
- 93 クレーン・ロボットの最期
- 94 消えた豪華船
- 95 ロボットボス出現
- 96 ゴールドウルフの最期

【実写版テレビドラマ】

1960年2月1日 - 同年4月25日に日本テレビ系列で放送された。全13話、モノクロ作品。ストーリーは、鉄人の出現、村雨兄弟の登場、QX団（原作ではPX団）との攻防、怪ロボットXの出現、サルバチア国（原作ではS国）のスパイ・仮面団との戦いと続くが、敵の基地から脱出した正太郎が謎の爆撃に遭う所で続きがないまま1クール全13話で終了となった為、正太郎が鉄人28号の操縦者になる事はなかった。第10話のナレーションによると、第1話から第10話までの間に、数年の月日が経っていることになっている。鉄人28号は着ぐるみで表現され、身長2メートル程度、第6話までの樽型と第7話以降のドラム缶型の2種類がある。前者は眼から、後者は胸から怪光線を出す。第13話で仮面団のロケットを取り付け、飛行可能になる。ロボットは他にも、鉄人26号、27号、仮面団の怪ロボットXが登場する。鉄人26号には『少年ジェット』に登場したロボットが使われたという説が存在する。日立製作所がスポンサーであったことから、第1話は日立市で撮影が行われた。



【第1作キャスト】

金田正太郎 - 高橋和枝
敷島博士 - 矢田稔
大塚署長 - 富田耕吉
村雨健次 - 久野四郎→安藤敏夫
ブラックドッグ博士 - 加茂喜久
ナレーション - 白石冬美→藤本譲

【村雨健次（むらさめ けんじ）】

声 - 久野四郎→安藤敏夫（第1作）、幹本雄之（第4作）、山本兼平（ガオ!）
正太郎のライバルとして登場。ギャングの一味であり、初期は鉄人をめぐっての対立があったのだが、途中から味方となる。また正太郎ほどではないがロボットの操縦にも長けている。アニメ第1作では、以前から正太郎達の味方という設定になっており、やくざの口調でしゃべっていた。アニメ第4作では銃を使わない主義であるため、ナイフを武器としている。なお、アニメ第4作や漫画『奪還計画』では、「不死身の村雨」を名乗ることがある。

<https://majingai.x.fc2.com>

【第1作スタッフ】

原作 - 横山光輝
監督 - 大西清、山本功、河内功、渡辺米彦、若林忠雄、上金史明、瀬古常時、松木功他
脚色 - アシエグループ
動画演出 - 庵原和夫
脚本 - 岡本欣三他
背景 - 星俊六
音楽 - 三木鶏郎、越部信義、嵐野英彦
制作 - TCJ
スポンサー - 江崎グリコ、グリコ乳業

2021.05.08